



20
23
遊

最高戦争指導會議
議題第一號

世界情勢判斷

昭和十九年八月十九日

50

0636

帝國ハ昭和十八年九月決定ノ「今後採ルヘキ戦争指導ノ大綱」ニ基キ
米英必死ノ反攻ニ對シ戦争目的ノ完遂ニ邁進シツツアリタルモ、其ノ
後ニ於ケル世界情勢ノ推移ニ鑑ミ、茲ニ當時ノ世界情勢判断ニ所要ノ
修正ヲ加ヘ昭和十九年末頃ヲ目途トスル情勢ノ推移ヲ觀察シ、戦争指
導ノ方策確立ニ資セントス。

目次

第一節 東亞ノ情勢

第二節 歐洲ノ情勢

第三節 「ソ」ノ對日動向

第四節 世界政局ノ動向

第五節 綜合判斷

附錄

其ノ一、各國ノ戰爭指導

其ノ二、各國ノ戰爭遂行能力

第一節 東亞ノ情勢

敵ハ帝國ニ對シ短期終戰ヲ目途トシ各方面相策應シツツ組織的總攻勢ヲ續行スヘク、特ニ本土空襲ト本土、南方地域トノ分斷ヲ目的トシ太平洋及大陸方面ヨリスル攻勢作戰ニ依リ戰局ノ急速ナル進展ヲ企圖スヘシ、又右戰局ニ伴ヒ本土上陸ノ機ヲモ窺フコトアルヘシ。

尙敵ハ其ノ武力攻勢ニ策應シ政謀略ヲ益々激化シテ我方戰意ノ喪失ヲ企圖スルト共ニ大東亞諸國家諸民族ノ對日離間ヲ激化スヘシ。

六 本土空襲

帝國本土ノ生産設備・交通施設及主要都市ノ徹底破壊ヲ以テ我カ戰意ノ喪失・國力ノ低下・國民生活ノ混亂ヲ企圖シ併セテ本土上陸作戰ノ機ヲ作爲セントスル敵ノ空襲企圖ハ支那及太平洋基地ノ整備ト機動部隊ノ活動トニ依リ概ネ八月以降逐次連續執拗且大規模ニ實施セラレ其ノ空襲被害ノ帝國戰爭遂行力ニ及ホス影響ハ輕視ヲ許ササルモノアルヘシ。

三 海上交通破壊

今後敵ノ我カ海上交通破壊作戰ハ在支航空部隊ノ活動ト相俟ツテ南

西諸島、比島方面ニ對スル潜水艦ノ集結使用、機動部隊ノ挺進行動等ニ依リ益々活潑化シ船舶ノ被害ハ増加スヘキモ比島及南西諸島方面ニ對スル敵航空基地獲得ノ企圖達成セラレサル限リ本土ト南方地域トノ海上交通ハ概ネ維持シ得ヘシ。

三 太平洋方面

中部太平洋方面ノ敵ハ隨時我艦隊トノ決戦ヲ企圖シツツ「マリアナ」及西部「カロリン」ノ要衝ニ海空ノ基地ヲ推進シ南太平洋方面ヨリノ進攻ニ策應シ比島及南西諸島方面ヲ攻略シ帝國本土ト南方地域ト

ノ交通遮断ヲ企圖スルヲラン、右來攻ハ概ネ十月頃迄ニ實現スルノ算大ナリ。

此ノ間小笠原方面及千島ノ要地攻略ヲモ企圖スヘシ。

四 緬甸及印度洋方面

北緬竝ニ「インパール」方面ニ對シテハ兩期中ト雖モ依然壓カチ加重スヘク特ニ印支「ルート」啓開ニハ全力ヲ集中スヘシ。又太平洋方面ノ攻勢ト策應シ有カナル機動部隊ヲ以テスル「アングマン」「ニコバル」等ニ對スル上陸作戰ト「スマトラ」油田地帯ニ對スル空

變ハ其ノ實現性大ナリ。

支那方面

重慶ハ極力抗戰ニ努メ特ニ南支方面航空基地ノ維持ヲ圖リツツ我カ
奥地進攻ヲ阻止スルト共ニ印支地上「ルート」ノ啓開作戰ヲ執拗ニ
繼續シ爾後戦力ノ恢復增強ニ伴ヒ反攻ヲ實施スヘシ。

又米、支空軍ノ増勢ハ依然繼續スヘク本土及緬滿北支等ノ要域ニ對
スル空襲並ニ海上交通ノ破壊企圖ハ愈々増大スヘシ。

尙東「ソ」及外蒙ヲ通スル援蔣「ルート」ノ啓開ニ關シテハ「ソ」

ノ今後ノ動向トモ關聯シ警戒ヲ要スヘシ。

六、大東亞諸邦ノ動向

大東亞諸邦ハ滿洲ヲ除キ現情勢ニ於テ既ニ其ノ對日協力的態度消極化ノ兆アリテ今後東亞尙ニ歐洲ニ於ケル樞軸側戰局ノ推移ト激刺政謀略ノ激化ト相俟ツテ政府及民衆ノ動搖治安ノ惡化等ハ漸次增大スヘシ、就中支那ニ於ケル我カ占據地域民衆ノ對日非協力化、比島民衆ノ離日敵性化、泰國内ノ動盪等ヲ逐次招來スルノ虞大ナリ。

印度假政府ノ對日動向ニハ變化ナカルヘキモ印度ニ於ケル英印相剋ノ度ハ戰局ノ推移ニ應シ上下スヘシ。

第二節 歐洲ノ情勢

歐洲戰局ハ米英軍ノ北佛上陸及「ソ」軍ノ夏季攻勢開始ニ伴ヒ漸ク本格的決戰段階ニ突入シ其ノ大勢ハ一般ニ獨側ニ不利トナリツツアリテ今後獨側ニシテ政戰局ノ轉機ヲ有利ニ把握セサル限り其ノ戰爭指導ハ愈々困難ノ度ヲ加フルニ至ルベシ。

一、獨「ソ」戰線

獨「ソ」戰線ニ於テハ「ソ」ハ今後主トシテ政略的見地ニ基キ自主的作戰ヲ指導スル算大ナルモ本年後期ニ於テハ失地ノ大部ヲ恢復ス

ルノミナラス更ニ西部波蘭並ニ東ノプロシヤ及洪牙利ノ一部ニ侵入スルト共ニ羅馬尼及芬蘭ノ大部ヲモ掌握スルノ事態ヲ見ルコトナシトセサルヘシ。

二 西歐第二戰線

西歐第二戰線方面ノ作戰ノ成否ハ獨ノ運命ニ最モ重大ナル影響ヲ及ボスヘク獨ニシテ今後好機ニ投シタル反撃ヲ實施スルカ或ハ米英軍ノ補給ヲ充分ニ遮斷シ得ル場合ニ於テハ戰勢ノ挽回可能ナルヘキモ然ラサル場合ニ於テハ米英戰線ハ逐次内陸ニ擴大スルニ至ルヘシ。

三 獨ノ傘下諸邦並ニ中立國ノ動向

今後ニ於ケル獨ノ軍事的情勢ハ樂觀ヲ許ササルモノアリ、特ニ第二
戰線方面ニ於テ斷乎タル決勝的攻勢ヲ採リ作戰ニ成功ヲ收メサル限
リ東部戰線ニ於ケル相次ク後退ト相俟ツテ獨ノ傘下諸邦並ニ中立國
等ハ漸次反樞軸側ノ策謀ニ屈服スルノ事態ヲ見ルコト無シトセサル

ハシ

第三節 「ソ」ノ對日動向

東亞及歐洲ノ情勢樞軸側ニ不利ニ進展スル場合「ソ」カ依然從來ノ如キ對日中立態ヲ堅持スヘキヤ否ヤハ疑問トスル所ナルモ特別ノ事態發生セサル限り自ラ求メテ對日參戰ハ勿論對米軍事基地供與ノ程ニ出ツルコト無カルヘシ

第四節 世界政局ノ動向

交戦各國ハ死闘ヲ續ケツツアルモ今ヤ内征スル窮狀漸ク表面ニ露呈セントシ茲ニ彼我戰勢ノ均衡破綻及豫想スヘカラサル異變等ヲ生センカ直チニ政局轉機ノ動因ヲ包藏シアルノ狀顯著ナリ。

從テ今後ノ狀勢推移ニ依リテハ歐洲ニ於テ獨「ソ」又ハ獨英米和平問題ノ發生及中立諸國ノ背反又ハ獨傘下諸邦ノ脱落ヲ見ルコト無シトセサルヘク嚴ニ警戒ヲ要スヘシ。

又重慶ハ戰局ノ推移米、英、「ソ」ノ動向、及日本ノ態度如何ニヨリテハ將來政局轉換ヲ考慮スルノ可能性無シトセス。

第五節 綜合判斷

今ヤ敵ハ戰爭ノ主動性ヲ把握シアルノ現状ニ乘シ全力ヲ傾倒シテ政
戰兩略ニ亘ル眞面目ナル決戦攻勢ヲ續行強化セントシ今夏秋ノ候ヨ
リ戰政局ノ推移ハ愈々重大化スヘク、之ニ對シ帝國ハ歐洲情勢ノ推
移如何ニ拘ラス決戦的努力ヲ傾倒シテ敵ヲ破摧シ政略的施策ト相俟
ツテ飽ク迄モ戰爭完遂ニ邁進セサルヘカラス。

附 録

其ノ一、各國ノ戦争指導

一、米 國

米國ノ戦争目的ハ自國ヲ中心トスル世界制覇ヲ期シ日獨、特ニ日ノ完全屈伏ニ在リ、而シテ米ハ成ル可ク速ニ戦勝ヲ決定的ナラシメンコトヲ期シ英國ト協力シ「ソ」及重慶ヲ利用シ以テ日獨ノ打倒ヲ圖ルヘシ、其ノ攻撃兵力ノ重點ハ東亞ニ指向セララルヘク又「ソ」ヲ倒日戦ニ導入スルニ努ムヘシ。

二 英國

英國ノ戰爭目的ハ概ネ戰前ニ於ケル勢力ヲ維持スル爲日獨、特ニ獨
ノ彈壓ニ在リ。

而シテ英ハ米トノ提携ヲ愈々緊密ニシテ其ノ重點ヲ獨ニ指向シ
ヲ利用シテ先ツ獨ノ彈壓ヲ圖リ他方米ト協力シテ東亞戰線ニ於ケル
攻勢ヲ加重シ戰後ニ於ケル東亞處理ニ不動ノ地歩ヲ確保セントスル
ナラン、其ノ間英帝國ノ結束及近東、阿弗利加ニ於ケル從來ノ地位
ノ確保ニ努ムヘシ。

英帝國保全ノ見地ヨリ米「ソ」ノ勢力歐洲ニ擴大セザランコトヲ冀

求スルト戰禍ノ大ナルトニ鑑ミ國民ニ終戰焦慮ノ氣運ナシトセス又
之ヲ基調トシテ歐洲處理問題ヲ繞ル英米「ソ」ニ相剋ノ徴ナキニア
ラサルモ獨ノ健在スル限り早急ニ米「ソ」トノ提携ニ破綻ヲ生スルコト
無カルヘシ。

三 重 慶

重慶ノ抗戰建國ノ目的ハ外國勢力ヲ排除シ其ノ領土及主權ノ完整ヲ
圖ルニ在リ、而シテ帝國ニ對シテハ主トシテ米英戰力ニ依ル日本ノ
屈伏ヲ冀求シ所謂失地回復ヲ期シツツ自ラハ概ネ防勢ヲ持シテ戰力

ノ消耗ヲ回避シ此ノ間爲シ得ル限り自力更生ノ策ヲ講シテ戦後ニ於ケル自主的地位ノ確立ヲ圖ルヘシ。

日本ノ屈伏ヲ冀求スルコト前途ノ如シト雖モ其完全屈服ハ總テ米英ノ壓迫ニ依ル苦難ヲ自國ニ招ク所以ナルヲ慮ラモノナシトセス。

四 「ソ」聯

「ソ」聯ハ依然世界赤化政策ノ遂行ヲ期シアリ、現下ニ於ケル戦争目的ハ當初獨ノ脅威ヲ芟除シ獨「ソ」聯戦前ノ領土ヲ回復スルニ在リシモ其ノ戦勢有利ニ進展スルニ從ヒ右領土回復ニ止マラス「スラフ」

民族ノ統一「バルカン」、西亞方面延テハ地中海方面ニ對スル勢力ノ伸長ヲ企圖スヘシ。

之ガ爲「ソ」ハ自主的ニ世界戦争ニ對處シ極力米英ヲ利用シツツ先ツ獨ノ屈伏ニ專念スルト共ニ戰後處理ニ對スル發言權ヲ確保スル爲政謀略ヲ活潑ニスヘシ。

「ソ」ハ帝國カ對米英戰ニ健闘シアル限りニ於テハ當分東亞ニ靜謐保持ヲ企圖スヘシ。

五 獨 國

獨ノ戰爭目的ハ「ソ」聯ノ脅威ヲ排除スルト共ニ英國ノ舊支配勢
力ヲ打破シ大獨逸民族國家ヲ組織シ其ノ生存ノ爲ノ歐洲廣域生活圏
ヲ建設スルニ在リ。

而シテ獨ハ米英ノ進攻、特ニ第二戰線ヲ擊碎スルト共ニ交通破壞戰
並ニ對英空襲ヲ強化シ其ノ戰意喪失ニ努ムヘシ。

附 録

其ノ二 各國ノ戦争遂行能力

一 米 國

(一) 國民ノ團結力ハ依然鞏固ニシテ其ノ物的優越感ニモ鑑ミ繼戰意志ハ當分動搖セサルヘシ、然レトモ其ノ士氣ハ主トシテ戰勢ノ振否ニ依リ級數的ニ増減スヘシ。

戦局豫期ノ如ク進展セサル場合ニアリテハ國內事情モアリ戦争遂行上機微ナル問題ヲ生スルコトナシトセス。

人的資源ハ漸次困難ヲ感シツツアリ。

□ 「ル」ノ地位ハ鞏固ニシテ其ノ政治力ハ戰勢ノ有利ナル限り動搖セサルヘシ。

大統領改選ノ結果如何ニ依リ繼戰意志ニ影響スルコトナカルヘシ。

③ 工業生産ハ概ネ昭和十八年末頃ノ水準ヲ維持シアルモ其ノ生産力ハ尙弾力性ヲ保有ス。

食糧ノ國內自給ハ充分ナルモ與國ニ對スル補給ハ中南米ノ利用ニ俟タサルヘカラス。

④ 地上兵力一二六師團ヲ基幹トスル現陸軍擴張ハ本年中期中ニ一應概成シ、海軍擴張ハ尙續行中ニシテ本年末高速航空母艦約二五隻ノ保有ヲ期シアルヘシ、又同時期ニ上陸用舟艇ノ建造量ハ約二四〇万屯（約八万隻）ニ達シ、航空機ハ第一線機約一万機（艦戰機一九〇〇機ヲ含ム）ヲ對日作戰地域ニ展開シ得ヘシ。

二 英 國

(一) 國民ノ團結力ハ尙鞏固ニシテ繼戰意志ハ動搖シアラス。
本國ノ人的資源ハ利用ノ最大限度ニ達シアリ。

(二) 「チ」ノ地位ハ鞏固ニシテ其ノ政治力ハ動搖シアラス。

(三) 本國ノ生産力ハ上昇ノ餘地ナキモ米國ノ援助ニ依リ現状維持概
ネ可能ナルヘシ。

食糧ハ海外依存性極メテ大ナルモ其ノ需給ニ窮迫シアラス。

(四) 陸、海、空軍ハ米國ノ援助ト自治領、屬領等ノ利用トニ依リ現
在程度ノ維持可能ナルヘシ。

三 重慶

(一) 繼戰意思ハ相當ニ鞏固ナリ。

人的資源豊富ナリ。

(二) 蔣ノ地位ハ尙鞏固ニシテ其ノ政治力ヲ保有スヘシ。

(三) 輕兵器及食糧ノ自給可能ナリ。

(四) 軍隊ハ現在裝備劣等ナルモ米國ノ援助ニ依リ其ノ裝備ハ逐次向

上スヘシ。

在支米空軍ハ漸次増強シツツアルヲ以テ之カ活動ハ嚴ニ警戒ヲ要ス。

四 「ソ」聯

(一) 國民性ノ粘着力ト「ス」ノ指導力トニ依リ特ニ戰局ノ好轉ト相

俟チ國民ノ繼戰意志ハ尙鞏固ナリ。

人的資源ハ概ネ限度ニ達シアリ。

(二) 「ス」ノ地位ハ極メテ鞏固ニシテ其ノ政治力ハ動搖シアラス。

(三) 生産力ハ今年末基礎工業ニ於テハ概ネ獨「ソ」開戰前ノ水準ニ

回復スヘシ、又飛行機並ニ戰車ノ生産量ハ既ニ戰前ノ生産量ニ匹敵シアルモ爾後急速ナル上昇ハ期待シ得サルヘシ。

尙「ソ」ノ戰爭遂行力ハ米英ノ援助物資ニ依存スルコト大ナリ。食糧ハ相當窮迫シアルモ未タ國內動搖ヲ來ス程度ニ至ラス。

四 本年八月以降ノ損耗ヲ約七〇万ト推定セハ本年末ニ於テ現有兵力(約一〇〇〇万)ヲ保持シ尙約二〇〇万ノ動員餘力ヲ有スヘシ。

五 獨 國

(一) 國民生活ハ相當逼迫シ舊時代軍人等ノ謀反事件ノ發生ヲ見ル等

國民ノ團結必スシモ鞏固ナラサルノ憾アルモ前大戦ノ苦キ經驗ニ
モ鑑ミ尙相當ノ戦争意思ヲ把持シアリ。
人的資源ハ限度ニ達セリ。

(二) 「ヒ」ノ政治力ハ當分動搖セサルヘシ。

(三) 生産力ハ戦勢ノ不利特ニ占領地ノ縮少、中立國ノ離背、空襲ノ
増大、労働力ノ不足等ニ依リ逐次低下スルノ已ムヲ得サル狀況ニ
在ルモ未タ戦争遂行ニ大ナル支障ヲ及ホス程度ニ至ラス。

食糧ハ勢力圏内ノ需要ヲ概ネ充足シ得ヘシ。

(四) 本年八月以降ノ損耗ヲ約七〇万以内ニ止ムルニ非レハ本年末ニ
於テ現有兵力(約九七〇万)ノ保持ハ困難ナルヘシ。